

## 平成28年度第4回三田市総合教育会議 議事録

|                |  |
|----------------|--|
| 会議の名称          | 平成28年度第4回三田市総合教育会議   |
| 開催の日時          | 平成29年1月6日(木) 13時00分～13時45分   |
| 開催の場所          | 市役所本庁舎3階302会議室A  |
| 出席した委員の氏名      | 森市長、鹿嶽教育長、虫明教育委員、中上教育委員、吉田教育委員、田口教育委員  |
| 出席した庶務職員の職及び氏名 | 城下理事、本田市民生活部長、岡崎学校教育部長、東野地域戦略室長、仲井市民文化室長、福本学校教育部次長、田中政策課長、印藤文化スポーツ課長、外岡教育総務課長、古井学校教育課長、西本学校給食課長、後田教育総務課参事、上治政策課副課長、松田教育総務課指導主事 |
| その他出席者         | なし   |
| 傍聴者の人数         | 4人   |
| 議 題            | ・三田市教育大綱(案)について<br>・平成29年度予算要求に係る主な事業について  |
| 会議の概要(結論)      | 三田市教育大綱(案)及び平成29年度予算要求に係る主な事業について議論した。   |
| 公開・非公開の区分      | 公開   |
| 使用した資料         | ・三田市教育大綱(案)<br>・平成29年度予算要求に係る主な事業について  |
| 連絡先            | 地域戦略室 政策課<br>電話(079)563-1111 内線(2211)  |

### 1 開会

東野地域戦略室長の司会により開会、配付資料の確認等

⇒「三田市総合教育会議の運営等に関する規程」第4条第5項に基づき、議事進行を森市長に交代

### 2 市長あいさつ

皆様新年明けましておめでとうございます。

今日は、平成28年度の第4回三田市総合教育会議の開催をご案内させていただきましたところ、各委員におかれましては、お忙しい中、また、年の初めにもかかわらず、ご出席いただき誠にありがとうございます。

また、昨年12月定例市議会で同意を得ました田口様に新たに教育委員として加わっていただきました。どうかよろしくお祈いします。

私は、本日午前中に大阪で阪急百貨店社長と面談する機会があり、予定では20分間のところを40分間お話しさせていただきました。その中で、まちづくりは、三田らしい、三田が持っている魅力や個性について将来を見据えてどのように組み立てていくのかということ、改めてまちづくりの基本にするべきであると思いました。その場合、三田の持っている魅力は、やはり学校や大学

が多いという学びの環境が整っており、市民の関心も高いことから、「学びの都（まち）」として、いかにしてグレードアップしていくのかということが、大きなまちづくりの課題であるということを経理とのお話の中で改めて感じ入ったところです。

総合教育会議も今日で今年度4回目の開催ということで、今年度から本格的に議論を実施させていただいておりますが、教育委員会におかれましては、いよいよ「第2期三田市教育振興基本計画」が近くにまとまり、来年度は市民の関心が高い小学校区等の見直しについて検証していただきます。これについては、市民にとってもコミュニティの問題と深く関わるということで、教育委員会には教育の立場からしっかり議論していただきながら、また、この総合教育会議の場でも率直に色々な意見交換をさせていただき、教育委員会の検証をもとに、次の段階としてより具体的な話を進めさせていただきたいと思っております。そういう意味では、来年度はこれからの教育にとって大きな節目の時期を迎えることとなりますので、各教育委員の皆様におかれましては、そうした点を踏まえ、しっかりとした検証、議論をお願いしたいと思います。

本日の会議は、教育大綱のまとめの議論が主たる議事となりますが、よろしくお願いいたします。

### 3 議事

#### (1) 三田市教育大綱（案）について ◆東野地域戦略室長から説明

<意見なし>

森市長：それでは、この教育大綱（案）につきましては、3月定例市議会に提案いたします「第4次三田市総合計画」及び「第2期三田市教育振興基本計画」に対する議会の審議結果を踏まえ、必要に応じて事務局で整理したうえで、3月末までに策定させていただきたいと思っております。

なお、策定した教育大綱につきましては、来年度当初に開催を予定しております総合教育会議において、ご報告いたします。

#### (2) 平成29年度予算要求に係る主な事業について ◆福本学校教育部次長から説明

森市長：私といたしましては、立場上この場でのコメントは差し控えさせていただき、予算査定の中で十分に議論させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

吉田委員：この予算を見ますと、「時代の流れや変化に応じた必要なもの」、「子どもの教育を行う上で最低限必要なもの」、「三田らしさが出せるのではと思われるもの」の3つに分類できると思っております。いずれを見ても必須だと思っておりますが、「確かな学力の育成」の「子どもの読書活動推進事業」です。学校図書館司書を5年間の目標として平成33年にすべての学校に配置するという計画ですので、在校中には配置されずに小学校を卒業する子どもも出てまいります。ある意味やむを得ず、年次を追って進めていくのも分かるのですが、この配置されない学校で、しかもあまり本が好きでない子どもが、そのまま置き去りにされるのではと懸念しております。将来的に「学びの都（まち）三田」として、それを示す指標がい

くつかあると思いますが、その中の一つが図書館の活用状況や学校図書館の運用状況等が指標として確認することができます。また、この5年間の目標を受けて「読書が好き」と答える子どもの割合が増加するいくつかの要因があると思いますが、その中で、将来的にも本が好きな子どもを育てるためには、身近で読書案内をしてくれる学校図書館司書というのは非常に大事な役割を果たしていると思います。本の嫌いな子どもがずっと置き去りにされないことを考えなければならないと常々思っているのですが、もちろん学校の授業の中で本の好きな子どもへの橋渡しなどを先生方は考えておられるものと思いつつも、未配置校ゆえに置き去りにされることがないように、この点は、週に何回か配置するという点ならばあまり大きな予算がなくともできるのではないのかと考えますので、何か工夫していただいて、平成33年に全ての学校に配置するのではなく、もう少し早く配置できないものかと思っております。市長から「本を読む子にしよう」、「学びの都（まち）にしよう」といったような掛け声があったらうれしく思います。

また、夏の空調対策につきましても、地球温暖化で教室も過酷な教育環境となっており、空調設備が大きな問題となっております。40度近くで学習することもありますので、できるだけ早急に対応していただければうれしく思います。

教育はお金がかかるわけですが、この時期に学びの楽しさや面白さを子どもたちに身につけさせてあげたい、それが小中学校の時期だと思います。そうした意味では、学校の授業の工夫と同時に教育条件を整えることも私達の仕事であると思います。教育は未来投資ですので、できる限り十分な教育予算をつぎ込んでいただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

福本次長：学校司書につきましては、配置校におきましても子どもたちが図書室に足を運ぶ回数が増えたほか、教員免許を取得している司書を配置しておりますので、授業の中で積極的に関わっていくなど、連携した取り組みが進んでいるところです。学校司書の配置に当たっては、これまで子どもたちの動きが少なかったと思われる所を優先的に配置している経緯もありますので、そうした状況を見据えながら司書も順調に配置していければと思っております。まずはどういった成果が上がっているか、どういった取り組みができているかということを積極的に他の学校にも発信し、少しでも効果的な取り組みを他の学校でも取り入れようとするのと、学校教育課教育研修所にチーフ司書を配置しており、当該司書はいつでも学校を訪問することができる体制を整えておりますので、そういった点も含めまして是非子どもの読書活動を推進してまいりたいと考えております。

中上委員：学校給食に関する予算がなかなか増えていないように思います。三田の野菜価格は市場相場の1.2倍と伺っており、例えば「三田ピーマン」においては、大阪中央市場の平均が大体1袋80円であれば三田では90～95円となっております。市場では一番高値で取引されることから、自らも農業を営む中で平均価格というのは厳しいと考えており、したがってもう少し予算を増やしていけないものかと思っております。関西では、三田は「緑が多く、水が綺麗、空気が綺麗」といったイメージのもと、三田の農産物は神戸や大阪では比較的高く取引

されている中で、農家の丹精込めた野菜を平均価格で給食に出荷するのは安いように見えますので、もう少し予算を組んでいただければと思います。同時に、お米につきましても、週に米食が1～2回減るところがあるのですが、可能であれば、子どもたちには給食でお米を食べさせたいと思っております。自らのように子育て中の親の世代はパン食で育ってきた経過から、予算の加減があると思いますが、今の時世なかなか子どもが増えないにもかかわらず、三田小学校やゆりのき台小学校で生徒が増えている状況下において、転校するなら三田が良いと思われるようにするためにも、やはり給食にもっと力を注ぐべきだと考えます。高齢化社会が進む中で次の世代を育てる基本は小中学校時代の食事ですので、そうした所にもう少し力を注いでいただければと思います。

福本次長：学校給食に関しましては資料に記載をしておりますが、地産地消につきましては、「第1期三田市教育振興基本計画」に掲載しております給食での使用率30%は、今年度新たに地場野菜として「蓮根」を給食に取り入れることができましたことから、目標を達成することができる見込みとなっております。来年度からスタートする「第2期三田市教育振興基本計画」ではさらに増して35%を目標に掲げることとしております。予算面につきましては、保護者負担である給食費の値上げを実施すればというところもありますが、これにつきましては慎重な検討が必要であると考えます。どのような形で保護者にご負担いただく、また市はどういう形で負担するという点につきましては、ただ今のご意見も踏まえつつ、慎重に検討してまいりたいと考えております。

中上委員：「中学校文化体育活動振興事業・部活動振興事業」に関しまして、藍中学校・長坂中学校・上野台中学校の生徒数が少なく、クラブ活動が満足に行えないことから、一緒にクラブ活動を実施すると伺いました。子どもたちには大変良いことだと思います。それと同時に、以前に事務局にはお話しいたしましたが、これからの子どもたちにキャリア教育を進めるのであれば、三田はゴルフ場が多いことから、今は存在しないゴルフクラブを新たなクラブ活動として取り入れてはどうかと考えます。ゴルフ場が市内に多い中、三田の特徴があるクラブ活動を設けられないか、また、子どもたちにアンケート等を取りながら、何か新しいクラブ活動を考えることはできないのでしょうか。

古井課長：現在、中学校の部活動は、昨年5月1日現在で89.2%の生徒が入部している状況であり、多くの生徒がスポーツ活動あるいは文化活動に親しめる環境が整備できているものと考えております。残りの約10%につきましても、学校以外での野球やサッカー等のスポーツ活動のほか、文化活動に親しんでいる生徒も見受けられます。生徒数の減少に伴い、ただ今のご意見にもありましたように、藍中学校・長坂中学校・上野台中学校では1つの学校で試合に出場できないなど、活動が困難な学校への支援を考えているところです。実は4～5年前から、1つの部活動の人数が少なくなっているという状況を踏まえ、部活動数を減らしてきているというのが現状です。子どもたちの意向を受けながら、スポーツができる環境を整えていく必要もあると考えます。

中上委員：新しいクラブ活動を設けることは無理なのでしょうか。今後、仮に子どもたちにアンケートを実施することができるのであれば、三田に面白いクラブがあることで、そうしたきっかけができれば夢の持てる、また周辺にないという点で面白いと思います。確かに野球であれば9人いないとできない、それを合同で行うことで試合に出場できるのは大変良いことではありますが、今後、アンケート等を通じて何か新しいクラブを考えていただければうれしく思います。

印藤課長：ただ今のご提案につきましては、今後の人口減少社会を踏まえますと、やはり子どもたちの運動の指導につきましても、学校だけではなく地域・家庭で協働して支えていただくことも大切であると考えます。したがって、ご提案の三田ならではの特徴を活かしたスポーツ指導は、是非、スポーツクラブ21等を含めました地域の運動クラブでご指導いただくことも視野に入れながら、振興を図っていただければと考えております。

鹿嶽教育長：今回は、来年度の予算を要求いたしました教育委員会の主な事業につきましてご紹介させていただきました。ただ、三田市では来年度から本格的な行財政構造改革を進める中で、また、限られた財源の中で、教育委員会としてもやはり優先順位を考えながら取り組んでいかなければならないと考えているところです。特に、経常的な経費につきましては見直せる部分は見直すという具合にこれまでから縮減を図ってきたところですが、三田市としての今後の教育に必要な予算として資料のとおり挙げさせていただくとともに、予算も要求させていただきました。先ほどの「三田市教育大綱（案）」にも記載されている部分、また来年度から進める5ヵ年の「第2期三田市教育振興基本計画」の初年度の予算の部分として重要視しているところではありますが、繰り返し申し上げますとおり、一定の優先順位を十分に考えながら取り組んでいかなければならないと考えております。三田市は、人口が減少しているという状況の中で、子どもたちの数も減少してまいりましたが、ここ数年の小学1年生の入学者数につきましては、一定歯止めがかかり、毎年約1000人程度の規模で入学されており、就学前の子どもたちにつきましては、三田市が進める施策の成果から保護者の方々も三田で教育を受けさせたいと考えておられることは非常にありがたいと思っております。今後も限られた予算であろうと思いますが、「学びの都（まち）三田」ということで、教育施策につきましてご配慮いただければありがたいと考えているところです。

森市長：先ほども申し上げましたとおり、予算要求につきましては、私といたしましては最後の調整権を持つ責任者としての立場上、この場でのコメントは差し控えさせていただき、改めて市の予算査定の場におきまして判断させていただきたいと思っております。ご承知のとおり、急激な高齢化により、三田市も行財政構造改革に本気で取り組み、市民の方々への痛みを伴いますが、毎年10億円以上削減していかなければとても立ち行かなくなってまいります。そういう意味では、教育・福祉・医療・産業振興・まちづくり等といった課題の中で色々な優先順位を決めながら、予算編成に取り組んでまいります。特に感じておりますことは、子どもの数の間

題につきましては、そろそろ自治体で奪い合うのではなく、日本全体で本当に子どもを増やすことを考えなければならないと思います。そういう意味では、市と県と国とが大きな視点に立って、子どもを増やし、いかに育てていくのかということを実際に考えなければならない時代になってきたと考えております。三田市におきましても「学びの都（まち）」というまちづくりの大きな方針を持っておりますが、やはり各方面と連携しながら、本当に三田で教育を受けて良かった、また社会がさすがに三田で学んだ人材は違うと思われることを最終目的として取り組んでまいりたいと考えております。市では、これから1ヶ月足らずではありますが、活発な予算に関する議論をしたうえで、2月中旬から始まる市議会におきまして提案させていただきます。教育委員の皆様におかれましては、様々な段階で教育長や教育委員会事務局を通じまして、色々なご意見をいただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

### (3) その他

森 市 長：以上で、本日予定しておりました議事はすべて終了いたしました。折角の機会でもございますので、幅広く教育に関するご意見やご質問など、この機会に皆さんから何かございましたら、遠慮なくご自由にご発言ください。

<発言なし>

森 市 長：それでは、以上をもって本日の会議の議事は終了させていただきます。

東野室長：それでは、本日の会議はこれもちまして終了いたします。皆様におかれましては、熱心にご議論いただき、誠にありがとうございました。

次回の総合教育会議につきましては、平成29年度当初に開催させていただきたく、今後日程調整を行い、改めて皆様にご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

本日は、誠にありがとうございました。

以 上